

## 令和6年度 ほどほどの会

日時:2024年6月18日(火) 15:30~17:00

場所:常盤台病院

参加者:田中(わおん)、加藤(リンク)、深澤・藤井(常盤台病院)、芳垣(区役所)、田村・早川(基幹相談支援センター)、小池(港北病院)、佐藤若(生活支援センター)(敬称略)

### 【議題】

#### 1. ケース検討

##### ① 検討ケースの経過

〈常盤台病院〉

主治医としては本人が了承すれば退サポや施設など支援を入れてもよい。「自宅に帰りたい」妄想が抜けず、社会資源を紹介するも拒否。

→院内カンファレンス開催され、ご本人状況変わらないため、地域の支援者にも会ってもらえると良いとなる。家族は入院継続希望していたが、主治医が施設へ入所可能と判断したら退院支援に移ることは承知されている。院内でのコロナ終息後、退サポが入れるとよいか。長男は関わり拒否ではないが、仕事が忙しく面会には来られないとのこと。本人の生活能力としては、洗濯など自分で行えている。

〈港北病院〉

・拒薬、障害受容の低さから支援が途切れることが懸念された方。グループホーム退院後、初回通院に来られた。生活保護申請に行けた。通所先は手作業のできる通所先を探していく。

→ルールを守りながらグループホームでの生活継続できている。

・昨年度のケース検討後、区役所へ法律相談をした方。本人が第三者へ金銭管理を依頼したい希望あれば、後見人設定を進めていく。親族との関わり方はこれからも変わらないと思われる。

→現状動きなし。区役所へ進捗確認、相談していけたら。本人は食事のこだわりはあるがトラブルなく過ごせている。以前、生訓体験利用したことがあるが調子が上がり中止になってしまった。

→金銭面の支援で退サポ検討できるか

##### ② 新規検討ケース

〈常盤台病院〉

88歳 男性 双極性障害 妻、次男と同居だったが妻の具合悪く、自宅への退院は拒否

ADL 自立しているが誇大妄想あり、服薬中断

本人は家に帰りたい意向、家族の意向を本人へ伝えてみてどう反応するか

#### 2. ほどほどの会の普及啓発について

〈在宅医療相談室の打ち合わせ報告〉

65歳以上の方が退院し地域生活できるイメージがつかない

- ・事例をピックアップするところから、生活面での困りごとの例、共通項が見えるとよい
  - ・当事者の方のつまづきやすいポイントを浮き彫りにして、ケアプラザの持っている情報と繋げていく
  - ・ほどほどの会で集められるつまづきポイントを整理していく
- 常盤台病院・港北病院の入院患者リストや、常盤台の新規事例より、病院ではなぜ施設待ち状態が起きているのか、在宅退院に向け何が課題になっているのかを集めていく

### 3. 常盤台病院 OT との協働活動

#### ①生活教室の見学

5月28日(火)に常盤台病院より4名参加。「楽しかった、次回も参加したい」との感想があがる。

まずは2~3カ月に1回から参加し、月1参加していきたい。次回8月~9月で、病院参加者の多い月で調整予定。

#### ②出張あかね工房

あかね工房より、常盤台病院を退院された方に実体験を語ってもらえるとよいか。

→7月中の実施について検討中。院内のコロナ流行によりストップしている。

### 4. その他

#### ・自立協ホームページのコラムについて

藤井氏よりコラムを作成いただいた。院内では看護師にも共有しており、患者の新たな一面を知ってもらえた。

ほどほどの会の取組みを病棟内でも知ってもらい、連携の取りやすさに繋がっていけるとよいか。

〈地域の援助者を知ってもらうためのアイデア〉

・協働活動として「地域資源を知ろう」など企画し、院内の年間計画に組み込んでもらえると看護師も参加しやすいかもしれない。

・社会資源紹介チラシやガイドブック作成など、資源にアクセスしやすい方法を考えていく。障害に限らず高齢分野も含めて啓発していきたい。

次回:2024年7月16日(火) 15:30~17:00 場所:港北病院